



# Troubleshooting Trace Setting の設定

[Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウでは、トラブルシューティング トレースの事前設定値を設定する対象の Cisco Unified CallManager のサービスを選択できます。この章では、特定のサービスのトラブルシューティング トレース設定値を設定またはリセットする方法を説明します。



(注) 長期間にわたってトラブルシューティング トレースを使用可能にすると、トレース ファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスが低下する可能性があります。

## 手順

**ステップ 1** [Trace] > [Troubleshooting Trace Settings] の順に選択します。

**ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。

- トラブルシューティング トレースを設定する場合は、各ノードのサービス リストで、サービスのチェックボックスをオンにします。特定のノードにおいて、すべてのサービスをチェックにする場合は、そのノードの下にある [Check all Services for a Node] チェックボックスをオンにします。すべてのノードのすべてのサービスをチェックする場合は、サービス リストで [Check all Services for a Node] チェックボックスをオンにします。

次に、[Apply Troubleshooting Traces] ボタンをクリックします。



(注) Cisco Unified CallManager ノードでアクティブにされていないサービスは、N/A と表示されます。

- クラスタ内のサービスの、元のトレース設定値を復元する場合は、[Reset Troubleshooting Traces] をクリックします。



(注) [Reset Troubleshooting Traces] ボタンは、1 つ以上のサービスに対してトラブルシューティング トレースを設定した場合にのみ表示されます。

### 追加情報

P.6-2 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- [トレースの設定 \(P.5-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』の「トレース」